

## ねぎの病害虫・夏越し対策を行ないましょう

令和3年7月

JA 山武郡市

本日、関東地方も梅雨明けし、いよいよ夏本番を迎えます。昨年よりも梅雨の期間は短かったですが、度重なるゲリラ豪雨により冠水する圃場が見られました。そのため、湿害による根痛みや、葉の病害が多発しています。

今後は、高温・猛暑が予想され、欠株につながる恐れがあるため、予防散布による防除と、圃場の排水対策を実施して下さい。

### ★ねぎ疫病

昨年も梅雨時期に多発しています。べと病や葉枯病との区別が難しく、登録農薬も限られているため、以下の症状を良く確認して下さい。



発病の様子

- ◆発生条件：生育適温 28～30℃、多湿
- ◆梅雨時期～初秋にかけて育苗及び本圃で発生
- ◆灰緑色で水浸状の病斑が発生し、後に黄白色の大型斑点を生ずる
- ◆病斑部から葉が曲がる、又は病斑部から先が枯死する
- ◆水媒伝染性のため、多雨、排水不良地で発生しやすい

## ★黒斑病、べと病

梅雨時期の低温により、べと病や黒斑病も発生しています。また、風雨により、病斑部分から葉が折れ曲がっている圃場が見られます。下記の農薬で防除を徹底しましょう。

 <p>黒斑病</p> <p>千葉県ネギ栽培 マニュアルより</p>	<p>◆発生条件： 24～27℃ 多湿</p> <p>◆5～11月に発生し、梅雨期に多発する。</p> <p>◆草勢が衰えた株に多発。</p> <p>◆べと病の病斑に二次的に発生することもある。</p>	 <p>べと病</p> <p>千葉県ネギ栽培 マニュアルより</p>	<p>◆発生条件： 15～20℃ 多湿・降雨</p> <p>◆風通しの悪い、もやがかかるとようなほ場で発生しやすい。</p> <p>◆排水不良畑や軟弱株で発生しやすい。</p>
---	---	--	--

## べと病、黒斑病、葉枯病、疫病に登録のある農薬例

作用機構分類コード	薬剤名	べと病	黒斑病 又は 葉枯病	疫病	倍率	収穫前 日数	使用 回数	効果
11 (C3)	メジャーフロアブル	○	○		2000倍	前日	3回	予防＋治療
	アミスター20フロアブル	○	○		2000倍	3日前	4回	予防＋治療
	ファンタジスタ顆粒水和剤		○		3000倍	7日前	3回	予防＋治療
40 (H5)	レーバスフロアブル	○			2000倍	7日前	2回	予防＋治療
	M05(M) (ダコニール)	○	○		1000倍	14日前	3回 ※1	予防＋治療
	27(U) (シモキサニル)	○			2000倍	14日前	3回 ※2	予防＋治療
21 (C4)	27(U) (シモキサニル)	○			2000倍	3日前	4回 ※3	予防＋治療
4(A1) (メタラキシル)	M05(M) (ダコニール)	○			800～ 1000倍	14日前	3回 ※4	予防＋治療
	M03(M)	○			1000倍	14日 前	3回 ※5	予防＋治療
P07	アリエッティ水和剤	○		○	800倍	3日前	3回	予防＋治療

- ※1 TPNとベンチアバリカルブイソプロピルを含む
- ※2 シモキサニルとベンチアバリカルブイソプロピルを含む
- ※3 アミスルプロムとシモキサニルを含む
- ※4 TPNとメタラキシルMを含む
- ※5 マンゼブとメタラキシルMを含む

混合剤は成分の総使用回数に注意して使用してください。

TPN(総使用回数4回以内)、ベンチアバリカルブイソプロピル(総使用回数3回以内)  
アミスルプロム(総使用回数4回以内)、メタラキシルM(散布回数3回以内)  
マンゼブ(総使用回数3回以内)

## ★その他、排水対策

ネギの根は酸素好むため、長期の滞水により酸欠状態となると、根張りが悪くなり、生育遅延や欠株につながる恐れがあります。基本的な排水対策と併せて、酸素供給資材を活用する方も増えているため、圃場条件に合わせて対策を検討して下さい。

◆明渠は必ず設置しましょう（植え溝からの余分な水を排水します。）

◆豪雨により滞水した場合は、草なぎや管理機で株の周辺を軽く中耕しましょう。

（畝の内部に空気を入れるイメージです）

◆酸素供給材を施用する（施用することで、土壌中で酸素を発生する資材です。様々なタイプの商品がありますので、JAへお問い合わせください）